

## 2022年度前期授業アンケートのサマリー

### 1 はじめに

平素は本学FD活動にご協力下さり有難うございます。標記の授業アンケート結果を、学生の成長度・満足度を上下させる要因を考察する形で纏めましたのでご参照頂ければ幸いです。今期の授業はほぼ対面形式で実施されました。アンケート評価の平均値・標準偏差に加え、学生の成長度および総合満足度と各評価値との相関関係、さらに自習時間が長い回答者の中で総合満足度が高い・低い回答における受講の様子を深堀して分析しております。なお本集計には履修訂正・削除者が含まれ、大学院科目とゼミナールは含めておりませんので、末尾の参考資料を含む同種の集計資料と差異がある点をご了承下さい。

### 2 アンケートの回収状況について

今回は履修登録者延べ数83,906件に対し回答数が55,428件となり、アンケート実施率は97.9%、アンケート回収率は66.1%でした。ご多用な中、アンケートの回収にご協力下さり誠に有難うございます。授業アンケートはFD活動その他に関わる貴重な情報であり、引き続き回収率の維持・向上にご協力頂きたく、お願い申し上げます。

### 3 各設問の平均値・標準偏差

基本統計量における平均値と標準偏差を下表に記します。設問11の自習時間以外の各設問の平均値は4付近で、その±1に回答が集中しており、これらは毎学期ほぼ同じ傾向です。

表 各設問の平均値と標準偏差(独立した選択肢を持つ設問は除外)

No	質問文:教員の授業の進め方・熱意に関するもの	平均値	標準偏差
1	教員は、学生達が理解しているかを確認しながら授業を進行したと思いますか？	4.19	0.96
2	教え方について工夫がよくなされていたと思いますか？	4.22	0.95
3	板書やスクリーンに示された内容、配付資料は理解を深めるために役立ちましたか？	4.34	0.88
4	話し方は聞き取りやすかったですか？ (話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方)	4.30	0.94
5	学生の質問や作業・発表に対し、教員から十分なフォローやフィードバックがあったと思いますか？	4.22	0.95
6	受講マナーが守られるように配慮され良い雰囲気のもと授業が行われていたと思いますか？	4.31	0.87
7	高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が伝わったと思いますか？	4.26	0.91
8	考え方や社会的視野が広がり、学習力や探求力の向上に得るところがあったと思いますか？	4.28	0.90
9	今後の学習や研究、また、将来の仕事の選択などに役に立つ内容であったと思いますか？	4.31	0.90
質問文:学生の意欲や達成感(振り返り)に関するもの		平均値	標準偏差
11	この授業に関して授業時間以外に事前・事後学習をどの程度学習しましたか？ (一週間平均。宿題や課題の実施時間も含む。)	1.06	1.05
12	この授業の内容は十分理解できたと思いますか？	4.10	0.91
13	シラバスに記載されている教育目標が達成できたと思いますか？	4.13	0.89
16	この授業を次年度履修する学生に勧めたいと思いますか？	4.23	0.97
質問文:総合評価		平均値	標準偏差
17	この授業によって成長できたと思いますか？	4.24	0.91
18	この授業は総合的に判断して良い授業であったと思いますか？	4.29	0.92

注:設問11は選択肢に該当する時間数を集計(5の「4時間以上」は4時間とした)

前述の平均値・標準偏差から、特に下記の傾向がみられました。

1) 自習時間(設問11)の平均値は2021年後期(1.14)に対してわずかですが減少しました。オンライン形式の割合が高かった2020年後期(1.42)と比べると対面形式では自習時間が減少する傾向が今回もみられました。

2) 理解度を測る設問12は、わずか0.01ポイントですが設問中で唯一増加しました。この設問は対面方式の割合が高い方が評価が高い傾向が以前よりみられ、今回も同様の傾向でした。

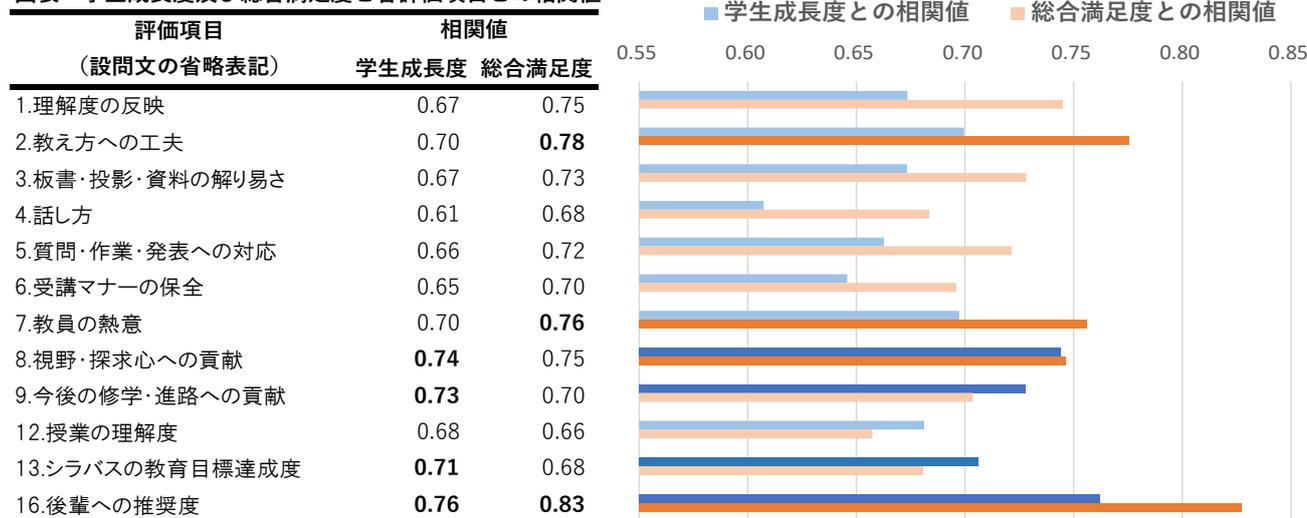
3) 総合満足度の平均値は前回と同じ値(4.29)でしたが、8つの設問(設問1, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 17)で、いずれも0.01~0.02ポイントとわずかですが減少しました。

各設問での値は前回とはほぼ同じ結果でしたが、一週間の学習時間が0時間と回答した学生がを3割強おり、注視すべきことです。事前事後の学習を促すために予習・復習の課題を教員負担が少ない自動採点方式で行うなど多面的な評価方法の実施をお願い申し上げます。

#### 4 学生成長度・総合満足度に関連する項目の考察

次に授業アンケートにおける主要な評価指標である「学生成長度(設問17)」と「総合満足度(設問18)」を左右すると思われる事項を、その他の評価項目との相関分析によって推定したいと思います。各項目との相関値を算出し、下記の通り表とグラフにしました。

図表 学生成長度及び総合満足度と各評価項目との相関値



(ご参考)過去の分析から「全て同じ選択肢を選択している回答(独立した選択肢を持つ設問を除く)」を除外した際の相関値は0.08~0.12下がりますが、項目内の順位は変わりませんでした。

上の図表を基に、学生成長度と総合満足度に対して特に関連しそうな事項を以下に記します。なお「後輩への推奨度(設問16)」は上記2項目の学生成長度・総合満足度と同様に、授業の最終評価に類する評価のため、下記の考察からは除外します。

### 1) 学生成長度に関連しそうな事項

「視野・探求心への貢献(設問8)」「今後の修学・進路への貢献(設問9)」「シラバスの教育目標達成度(設問13)」  
 ⇒新たに学習する単元について探究心を引き出すようなテーマを設定すること、また、履修科目を学ぶ意義や目的、学科カリキュラムの中での位置づけといった点を説明した上で学習させることが、成長意欲の向上につながると推測されます。

### 2) 総合満足度に関連しそうな事項

「教え方への工夫(設問2)」「教員の熱意(設問7)」

⇒教え方の工夫や理解を深めて欲しいと思う熱意は、学生に伝わっていることがうかがえます。理解が難しいと思われる単元について、特に講義方法を工夫したり、学生の反応を見て理解度を確認しながら講義を進めていくことが総合満足度の向上につながると推測されます。

また上の図表によると、「視野・探求心への貢献(設問8)」は、学生の成長・満足度の双方に対して比較的強い相関が認められました。これは2021年後期も同様の結果でした。このことから、学生の探究心を引き出すような課題を設定すること、またそれを示すタイミングや提示方法等を検討する価値はありそうです。

## 5 自習時間が長く総合満足度が高い・低い回答の様子

上記3章で除外した独立した選択肢を持つ設問として、「受講した動機(設問10)」、「成長を感じる事項(設問14)」、「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」があります。本章ではこれらの設問について、特に時間をかけて修学している(「自習時間(設問11)」が4時間以上)中で、「総合満足度(設問18)」が最高／最低の回答を抜き出して傾向を考察しました。これにより、「負荷をかけても満足度の高い学びにつなげるポイント」及び、「熱意を込めても満足度が下がってしまう要因」を探りたいと思います。

表 独立した選択肢を持つ設問における集計結果

No	設問文 (省略表記)	選択肢 (一部省略表記)	該当条件内での割合		
			全体	4時間以上自習	
				満足度最高	満足度最低
10 受講した動機		1 単位をとるため	72.7%	60.7%	85.2%
		2 友達の受講または勧め	1.8%	1.7%	0.7%
		3 先生が面白そう	3.2%	4.4%	4.4%
		4 自分の専門・人生に役に立ちそう	15.6%	27.2%	8.9%
		5 内容が面白そう	6.8%	6.1%	0.7%
14 成長を感じる事項		1 成長した能力はない	12.3%	13.1%	50.4%
		2 技術者としての倫理観	10.4%	11.7%	3.7%
		3 プレゼンテーション能力	8.9%	12.8%	5.2%
		4 自ら継続的に学ぶ能力	19.0%	16.7%	17.8%
		5 社会で必要な教養・基礎力・専門知識	49.3%	45.7%	23.0%
15 理解を深める仕組みや工夫		1 グループワーク・発表	12.6%	31.9%	6.7%
		2 振り返り教材のアップロード	26.1%	23.9%	20.0%
		3 アンケート・小テストでの理解度把握	27.0%	14.1%	7.4%
		4 その他の仕組みや工夫	22.0%	27.3%	5.9%
		5 仕組みや工夫はない	12.4%	2.8%	60.0%
各列に該当する回答の件数：			55,428	1,742	135

1)「受講した動機(設問10)」について

全体の7割強が「単位をとるため」という受動的な選択をしている中で、長時間自習を行い、かつ総合満足度が最高の回答中では、「自分の専門・人生に役立ちそう」が高い割合となっていました。自分の学びたいことや将来の進路を意識しながら受講することが自主的な学習につながるようです。

2)「成長を感じる事項(設問14)」について

「プレゼンテーション能力」の割合が全体に対して高い傾向にありました。プレゼンテーションに向けて時間を掛けて準備したことが達成感を生み、自己の成長を感じることに繋がったと考えられます。また、努力が報われたことが成功体験となり、科目の総合満足度が高まったと考えられます。

3)「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」について

長時間自習×高満足の層は「グループワーク・発表」の割合が高く、「仕組みや工夫はない」が極めて低いという傾向にありました。時間を掛けて取り組んだ能動的な学習が、特にこの層では、さらなる成長を促している様子が見て取れます。また、教員が独自に用意した工夫を効果的に活用して学習に取り組んでいることがうかがえます。

最後にネガティブな回答にも目を向けたいと思います。4時間以上の自習を行ったものの総合満足度が最低だった回答が、少数ですが存在しました。この層は他と比較し非常に多くの自由回答が記述されており、その中で気になった回答は「量が多いあるいは難度が高い課題に取り組んだものの、評価の方法が分かりにくい」といったものでした。公開授業やFDフォーラム等で優れた授業提供方式・システムを情報収集頂き、ご自身の授業の課題に合わせた改善を継続的に図って頂けると幸いです。

## 6 おわりに

2022年度前期は、ほぼ対面授業に戻りました。しかし、コロナ禍は続いており、感染を防ぎながらの対面授業実施に先生方には引き続き様々な試行錯誤を施行頂きました。成長度・総合満足度は、前回と同様の高い値を維持しておりました。これは大変喜ばしい結果であり、先生方のご尽力に改めて御礼申し上げます。

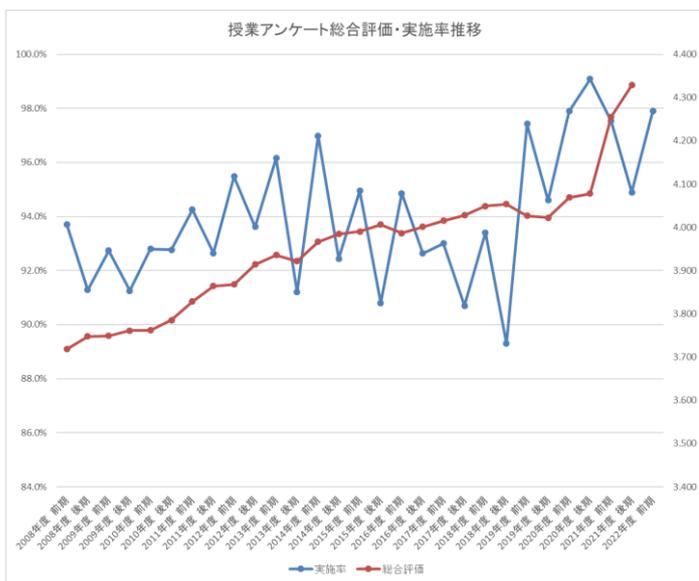
教員の工夫や熱意は、学生にしっかりと伝わっており、高い満足度につながっておりました。これは教員にとって授業準備の励みになることと思います。

一方、懸念として、学生の自習時間は今回も、オンライン形式の授業の割合が多かった時期と比べて短くなっている傾向がみられました。事前事後学習をしていないと回答した学生が、3割強と少なくない割合で存在していました。学力低下が懸念されます。自宅での予習・復習を促すような工夫がさらに必要であると考えられます。また、多数の設問の値が、わずかながら減少していました。対面形式の講義に慣れてきた今期は、対面講義を強く望んでいた時期と比べて、不満となる点が見えてきたのではないかと考えられます。今後も注視する必要があります。

FD委員会では、本学が掲げる師弟同行・師弟共生の教育目標に沿った質の高い教育が実践できるよう、多角的な視点と多様な情報源から現状を捉え、改善施策を検討して参る所存です。授業提供の方法論やシステムは日々進化しておりますので、継続的な情報収集・試行錯誤が益々重要となります。先生方におかれましては、まずアンケート回収率のさらなる向上にご協力頂き、そのうえで授業改善に向けた積極的・継続的な試行錯誤とブラッシュアップ、またFD委員会が主催する講習会などへのご参加をお願い申し上げます。

引き続き、授業アンケートをはじめとするFD活動へのご協力を宜しくお願い申し上げます。

## 参考資料



年度	実施率	総合評価	年度	実施率	総合評価
2008年度 前期	93.7%	3.718	2015年度 前期	94.9%	3.990
2008年度 後期	91.3%	3.748	2015年度 後期	90.8%	4.006
2009年度 前期	92.7%	3.749	2016年度 前期	94.9%	3.986
2009年度 後期	91.3%	3.761	2016年度 後期	92.6%	4.001
2010年度 前期	92.8%	3.762	2017年度 前期	93.0%	4.015
2010年度 後期	92.8%	3.786	2017年度 後期	90.7%	4.028
2011年度 前期	94.3%	3.829	2018年度 前期	93.4%	4.049
2011年度 後期	92.6%	3.864	2018年度 後期	89.3%	4.053
2012年度 前期	95.5%	3.868	2019年度 前期	97.4%	4.027
2012年度 後期	93.6%	3.914	2019年度 後期	94.6%	4.022
2013年度 前期	96.2%	3.936	2020年度 前期	97.9%	4.069
2013年度 後期	91.2%	3.922	2020年度 後期	99.1%	4.078
2014年度 前期	97.0%	3.966	2021年度 前期	97.5%	4.255
2014年度 後期	92.4%	3.984	2021年度 後期	94.9%	4.329
			2022年度 前期	97.9%	4.291

以上